経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県　高畠町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	91.56	99.28	3,850	

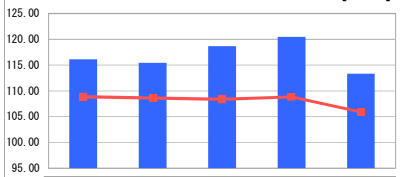
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
22,094	180.26	122.57
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
21,791	43.70	498.65

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

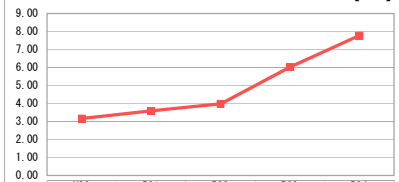
【108.70】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	116.08	115.43	118.65	120.46	113.35
平均値	108.87	108.61	108.35	108.84	105.92

②累積欠損金比率(%)

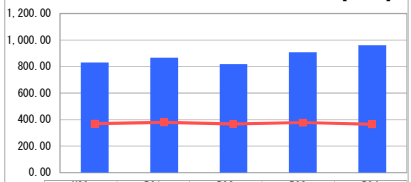
【1.34】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	3.16	3.59	3.98	6.02	7.78

③流動比率(%)

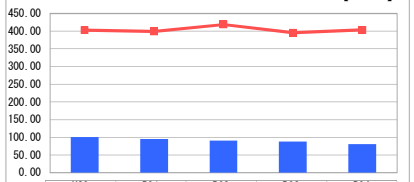
【252.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	830.96	867.23	818.93	908.08	961.43
平均値	369.69	379.08	367.55	378.56	364.46

④企業債残高対給水収益比率(%)

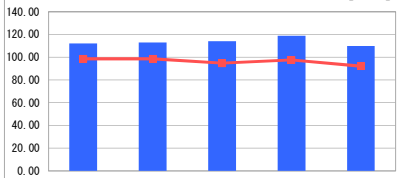
【268.07】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	100.56	95.40	90.44	87.68	80.98
平均値	402.99	398.98	418.68	395.68	403.72

⑤料金回収率(%)

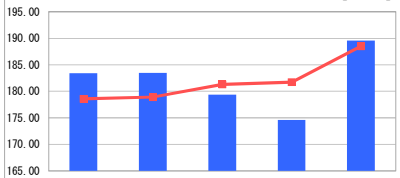
【97.47】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	112.07	112.91	114.07	118.86	109.81
平均値	98.66	98.64	94.78	97.59	92.17

⑥給水原価(円)

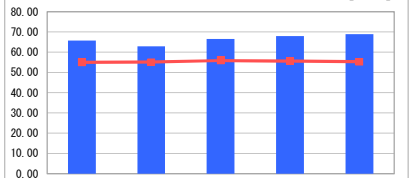
【174.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	183.42	183.48	179.40	174.62	189.59
平均値	178.59	178.92	181.30	181.71	188.51

⑦施設利用率(%)

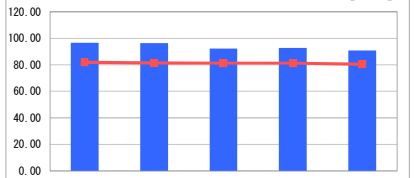
【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	65.76	62.94	66.57	67.94	68.93
平均値	55.03	55.14	55.89	55.72	55.31

⑧有収率(%)

【89.76】

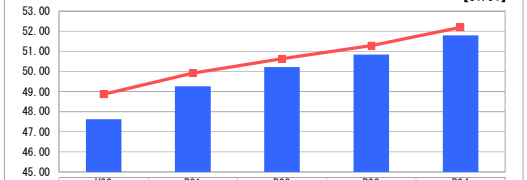


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	96.54	96.28	92.13	92.73	90.72
平均値	81.90	81.39	81.27	81.26	80.36

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

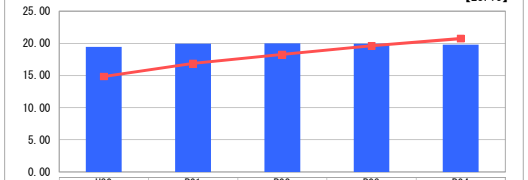
【51.51】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	47.62	49.27	50.22	50.85	51.79
平均値	48.87	49.92	50.63	51.29	52.20

②管路経年化率(%)

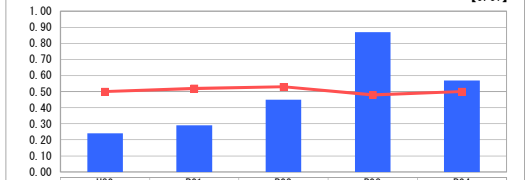
【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	19.47	19.97	19.98	19.96	19.77
平均値	14.85	16.88	18.28	19.61	20.73

③管路更新率(%)

【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.24	0.29	0.45	0.87	0.57
平均値	0.50	0.52	0.53	0.48	0.50

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
　給水収益が伸びない中、物価高騰等により費用は増加していることから、経常収支比率が下がったが、黒字を示す100%以上を継続して維持しており、今後の投資のための財源は確保されている。
②累積欠損金比率
　営業活動により生じた損失はなく、当面欠損金は発生しないと見込まれる。
③流動比率
　継続的に健全な数値を保ち、類似団体の平均値から大きく上回っており、運営資金は十分に確保されている。
④企業債残高対給水収益比率
　平均値を大きく下回っており、順調に企業債償還が進んでいる。
⑤料金回収率
　平均値を上回ってはいるが、物価高騰等に伴い費用が増加していることから、支出内容を精査し費用削減に努め、更新投資に充てる財源が確保されるようにしていく。
⑥給水原価
　電気料金の高騰、修繕費、委託料、人件費の増加により総費用が増大したため給水原価が上がった。
⑦施設利用率
　季節により使用水量に変動はあるが、継続して平均値を上回っており適切な施設規模を維持管理している。
⑧有収率
　継続して実施している漏水調査業務により、漏水等の原因を特定し、早期の修繕につながることから、給水される水量を収益に結びつけることができている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　年々率が上がっている傾向にあるため、計画的な施設更新が必要である。
②管路経年劣化率
　他団体が右肩上がりで数値が上がる中、老朽管更新事業を本格化させたことにより、ここ数年は数値が横ばいとなっている。しかしながら依然として更新が必要な管路は多くあるため、今後も事業費の平準化を図りながら計画的に更新していく必要がある。
③管路更新率
　令和2年度から老朽管更新事業が本格化したことにより管路の更新が進んだ。今後も継続して計画的な更新事業を図る必要がある。

全体総括

　経営状況や収益状況は概ね良好であるが、電気料金や原材料費の高騰等により費用が増大しているため、支出内容の精査が必要である。また、施設の老朽化が進んでいることから、これまで蓄えた資金を活用して計画的な更新事業を行う必要がある。当面は令和6年度まで高畠地区中心部の老朽管更新事業を実施し、それ以降は経営戦略の見直しを行いながら中長期的な計画を行っていく。
　また、給水人口の減少、節水器具の普及により、料金収入が減少していく見込みであることから、健全経営を維持しながら、将来的には、料金体系の見直しや広域連携による事務の効率化を検討する必要がある。